

あなたのブロック塀は大丈夫ですか

和歌山県では、東南海・南海地震などの大地震が想定されており、基準を満たさないブロック塀や老朽化したブロック塀の倒壊による直接的な人的被害はもとより、津波等からの避難や緊急車両の通行をさまたげることが心配されています。このため、ブロック塀の健全化を促進する必要があります。

新潟県中越沖地震のブロック塀の被害状況

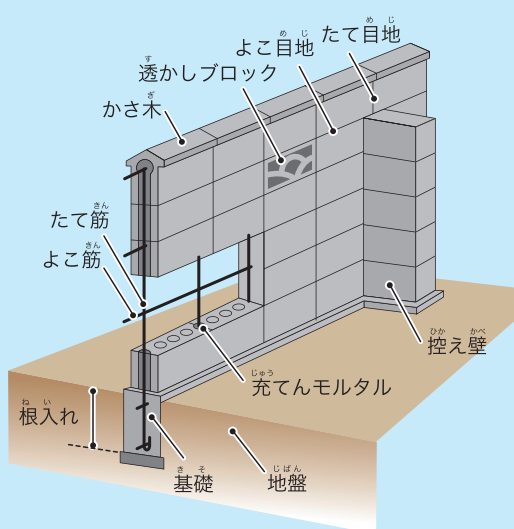


基礎の根入れ不足等により傾いた状態。
電柱により転倒をまぬがれている。



たて筋がなく、上2段が滑り落ちたと推測される。

ブロック塀の診断には、自己診断ができるように「ブロック塀の診断カルテ」があります。ご自宅のブロック塀について診断してみましょう。診断結果を踏まえて建築士などの専門家に相談してください。ブロック塀の診断に関する詳細な情報やブロック塀についての知識については、社団法人全国建築コンクリートブロック工業会ホームページなどをご参照下さい。（ホームページ <http://www.jcba-jp.com>）



診断にあたってのアドバイス

- ・ 建築後約 20 年経過すると、壁体内部の鉄筋にさびが認められるようになり、抵抗力が弱くなります。
- ・ 建築後に高さ方向の増積みをする、全体のバランスや鉄筋が上下につながらないなどの問題が生じます。
- ・ ブロック塀は、自立構造物として設計されています。土圧や他の構造物からの力には、抵抗できません。
- ・ 擁壁や玉石積みの上のものは、基礎の抵抗力不足や落下時の衝撃などにより、危険性が高くなります。
- ・ 鉄筋の有無は、感度の良い方向磁石をブロック塀に近づけたときに、針が振れることで確認できます。
- ・ 耐力診断には、危険を伴うことがあります。必ず周囲には人がいないことを確認し、ブロック塀を押して下さい。

裏面で診断をして下さい。

出典： 問いかけられる自己責任 あんしんなブロック塀をめざして (社)全国建築コンクリートブロック工業会他より抜粋

問い合わせ等：和歌山県都市政策課 ☎073-441-3231